

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・知」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己を抑制し、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で困難な状況下であっても、不撓不屈の精神を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標（新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を図って次の目標に向かう。）

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・知」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・4つの生活信条を学校生活・教育活動で実践する。 ・進度より深度を基本に授業を展開し、進学、就職の実績を高める。 ・運動部活動や文化部活動の活性化。	A	進路希望別クラス編成で、多様な進路希望に対応した教育活動を展開した。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、生徒の進学・就職へ向けた適切な進路指導を継続した。学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」を踏まえ部活動を実施した。
	開かれた学校づくり	③学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ④保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや学校通信「文徳点描」の更なる充実を進める。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を推進する。	A	HPは動画による発信内容を充実させ、学校の状況を分かりやすく伝えるものとした。新型コロナウイルス感染防止のため、文徳会総会(保護者総会)は今年も書面総会となったが、運営委員会・合同理事会・学年別保護者会は感染防止対策を講じて実施した。
	教育環境の整備	⑤教育環境整備計画を推進する。 ⑥適宜施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・ICT教育を展開するため、施設設備の環境の整備を図る。 ・新校舎及び周辺施設を有効に活用する。	A	・4月に全校生徒へ端末を配付し、夏休み期間中には、全教室・特別教室へICT機器を導入、Wi-Fi環境の整備を完了した。 ・災害が発生した場合に備え、発電機やLED照明等を設置した。 ・学校設備不具合調査(7月12月)を実施し、危険箇所への早期対応を図った。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・各コースごとの特徴を踏まえて、学力向上(基礎力の定着、応用力の涵養)に向けたシラバスを作成し、各教科担当者が工夫した授業を行う。 ・研究授業、公開授業を実施し、指導力のアップを図る。	A	コースごとの特徴を生かした授業展開ができた。授業公開WEEKを実施することで、相互の授業を教職員の学びの場とし、各職員が自身の授業力向上に努めた。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・教科担当者は授業後の課題を提示し、家庭学習を促す。週末には週末課題を提示する。 ・「学習と生活の記録」を活用し、個々の生徒の学習状況を把握・共有する。	A	学習と生活の記録を活用することで、生徒一人一人の学習習慣を把握することができた。休日の課題の提示をICT機器を使って行ったり、AI型ドリル「すらら」を使ったりと、教師それぞれが工夫しながら学習指導に臨んだ。
	読書指導	⑤本に親しむ環境、多面的に知を求める姿を育成する。 ⑥読書週間を周知徹底し、読書習慣の定着をはかる。	・図書館教育、読書指導の充実を図るため、生徒会図書委員会の活発な活動を促す。 ・定期考査後の読書週間を更に活用し、読書に向かう姿勢を育む。 ・『図書だより』を定期的に発行し情報伝達を図る。	B	コロナ禍において、感染防止対策を講じながら、読書活動の啓発に取り組んだ。読書感想文等の校外コンクールへ多くの生徒が投稿し、成果をあげた。また、図書委員会の活動を通して、文化行事における本の紹介・『図書だより』の発行・図書館報『金峰』の発行等を通して、読書奨励活動を継続した。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	①命を大切にする心を育てる教育を行う。 ②基本的生活習慣の確立 ③生活信条の実践 ④掃除の徹底 ⑤服装・容儀を正す ⑥遵法精神の涵養 ⑦情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ⑧薬物乱用防止の啓発と運動の推進	・新入生研修や各学年集会を通じて人としてより良く生きる教育を行う。 ・心身の健やかな成長を支える基本的生活習慣を身につけさせる。 ・遅刻・欠席の原因を究明し、適切に指導する。 ・教育環境づくりに力を入れる。拭き掃除の徹底と整理整頓の指導 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進のため、外部講師等に依頼し、正しい知識を身に付けさせる。	A	コロナ禍の中、感染防止対策の徹底を喚起すると同時に、生徒同士がお互いの人格を尊重し合い、協力し合うよう呼びかけた。各学年集会ではルール、マナーの遵守の徹底。朝の登校指導では、遅刻指導を行った。今後ますます、生徒個々の規範意識の向上が求められる。整容指導を含めた日常的な生活指導の充実が急務である。昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍の生活に欠かせないマスク着用、手指消毒の徹底に力を注いだ。生徒が登校する前に校舎内の換気を毎朝行った。
進路指導	進路目標設定 進路情報提供	①指導・支援の強化 ②設定目標への指導内容の充実 ③進路ガイダンス機能の充実 ④就職希望者全員合格 ⑤国公立大学への合格増加	・学年と連携し、生徒の進路意識を高めるために、進路講演会や進路情報の提供を行う。 ・指導力、組織力向上を図るために、他校視察や外部講演会参加を促す。 ・LHRや総合的な探究の時間を活用し、進路学習を推進する。 ・大学の体験講座や見学、インターシップを進路選択の契機とする。	B	一人一人の生徒のニーズに応じた課外授業を展開した。今後も、コースの特性に応じた進路指導のビジョンをより一層明確にしている。対外模試の結果を元に、先生方が普段の指導内容について省察する機会を提供した。大学入学共通テストをはじめ、大学入試では思考力・判断力・表現力がより一層問われている。そのような力を身に付けさせる授業実践について研鑽を積む機会を提供したい。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	①生徒一人一人が学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。	・生徒会・各委員会の活動内容を、生徒が主体性をもって活動しやすいように見直しをする。 ・文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ・HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。	A	感染拡大防止のため、体育大会は中止となったが、文化祭・クラスマッチは感染対策を講じて実施した。芸術鑑賞会(観劇)は午前と午後の二回公演とし密集を避けて実施した。各委員会についても、参加人数を縮小し、活動の時間・場所を指定して定期的に実施できた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
総務部	円滑な学校行事の実施	①諸学校行事の円滑な企画・運営を図る。	・前年度の評価、反省を生かした企画 ・ねらいや留意点の徹底 ・行事後の評価、反省	A	事前打合せを入念に行い、円滑な実施ができた。始業式や終業式はリモート配信で行うなど感染状況に応じて実施方法を工夫した。生徒表彰においてはリモート配信時のほうが、生徒の顔と賞状が見やすく印象に残りやすかった。	
	人権教育の推進	②人権教育の充実を図る。	・校内研修の充実。 ・校外研修への積極的参加。 ・LHRにおける指導の充実。	A	アンケート・面談等により、いじめの実態把握と早期発見、早期指導に努めた。人権同和教育講演会「水俣病について」は高校1年生以外をリモート配信で実施した。人権啓発作品（標語/メッセージ）を募集し、人権意識の高揚を図った。	
	P T A等学校関係機関との連携	③P T A活動の充実を図る。	・学校との連携・調整。 ・教育活動への支援・協力体制の充実。 ・外部関係団体との連携。	B	今年も定期総会は書面総会となり、PTAスポーツ大会も中止となったが、クラス理事会や運営委員会は感染防止対策を講じて実施できた。文徳会(保護者会)の朝のあいさつ運動や文徳会新聞の発行、門松作りなど継続的な協力を得た。	
	防災意識の高揚	④緊急事態に対し身の安全を図る。	・学校環境、立地条件を踏まえた対策。	B	感染症拡大防止の観点から実際に移動しての避難訓練はできなかったが、緊急時の注意や避難経路の確認を各教室で実施できた。地震だけでなく火災時についても確認した。身を守り助け合う意識付けができた。	
	記録・資料の保管	⑤学校関係記録・保管の整備を図る。	・記念事業等を踏まえた資料の収集・保管。	B	各部との連携、協力により資料とデータの保管管理を行った。校務日誌は紙による保管だけでなくデータでの保管も並行して行った。	
各部及び理工科	生徒指導部	①生徒の基本的生活習慣の確立を図る。	・互いに人格を認め合う生徒集団をめざす。 ・欠席・遅刻・早退がなく、健康な体力と精神を育てる。 ・声を出してあいさつのできる生徒を育成する。	B	基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成を目指し、生徒の人間関係に配慮しながら、指導にあたった。お互いを尊重し合い、共に成長する人間関係の必要性を「文徳点描」を通して保護者へも発信し家庭での協力を呼びかけた。登下校時にあいさつ運動を行い、身だしなみの指導も行った。	
		②生命を尊重し、安全で健康な心身の確立を図る。	・交通道徳・マナーの遵守及び安全意識の高揚を図る ・自己の心と体を知り、健全な学校生活を送らせる。	A	カウンセリング部と連携し、生徒の悩みやトラブルの逸早い発見を心掛けた。保健部と連携して、クロームブックによる健康観察を通して各クラスの状況を把握し、指導計画に結びつけた。各学年会と連携し、ルールの遵守・マナー向上の指導に努めた。毎月17日を「学校交通安全日」と定め、交通事故防止の啓発活動を継続している。	
		③自主性を養い、勤労意欲に満ちた生徒の育成を図る。	・校内外の環境美化に努め、施設・設備を大切に育む精神の育成を図る。 ・ボランティアをとおして、社会に貢献できる喜びを体感させる。 ・学校行事や校内活動に積極的に参加させる。	B	多くの生徒が進路目標をもち、その実現に向けて学校生活を送っている。今年度はコロナ禍にあり、講演会や各種行事など制限のある中での実施となったが、総合的な探究、LHRの時間を活用し、自己を見つめる機会を設定した。学習や学校生活に消極的な生徒に対しては多角的なアプローチを各学年会と協力し模索する必要がある。	
		④特別教育活動の推進を図る。	・部活動への参加を推進する。 ・地域と連携したボランティア活動を計画する。 ・生徒会活動、委員会活動を通じて愛校心、地域愛、所属意識を育てる。	B	部活動の人間教育は、目的意識や集団活動を行う上で成果を上げていく。文化系部活動を充実させるために、目的を明確にし、発表の場を提供する必要がある。生徒会役員は、自発的に校内の美化活動を行っている。今後は地域清掃などを通して、地域との連携の場面を設定したい。	
		⑤学校の環境美化を推進し、奉仕精神の育成を図る。	・全職員による清掃指導の強化を図る。 ・教室・部室などの環境整備や美化意識の向上を図る。	B	掃除監督に全職員を配置し、毎日清掃指導を実施した。教育の場として、生活空間の清掃美化を生徒自身が考え行動するように発展させたい。清掃時には日誌を記録し、生徒個々の環境美化への意識向上を図った。	
保健部	健康教育の推進	①自己を知り、体と心を鍛え健康で衛生的な生活の推進を図る。	・校医検診を始めとする各計測検査結果の適切な指導処置を図る。 ・生涯に通じる健康観の確立と自己管理能力の定着を図る。	B	・保健指導では、保健委員会を中心に学校行事や季節に応じた「保健だより」を作成し、保健衛生活動に寄与した。また、学校行事においては各委員会と連携し、安心・安全な行事が実施できた。 ・健康観察についてはロイロノートを活用し、全校生徒の健康状態の把握が容易になった。 ・朝の健康観察による欠席状況・健康状態・感染症の罹患状況のデータの共有と保護者との連携を学校全体で取り組む必要がある。	
		②生命尊重を基盤とした、健康で安全な行動・実践力の養成を図る。	・学校内外での活動（体育行事・学校行事）での適切な準備指導を行う。 ・安全・衛生的な環境整備の維持や安全点検の実施を行う。 ・心身の健康に問題を有する生徒への対応の充実を図る。	B	・学校保健計画に基づき、定期健康診断・各健診等を実施した。感染症対策については、感染源の除去及び感染経路の遮断等、学校環境の衛生面の充実を図った。コロナ禍による急激な生活環境の変化により、不登校などの心の健康問題を抱えた生徒が増加傾向にある。 ・学校活動(行事等)を実施するための感染症の予防と対策について、更なる取り組みが必要となる。	
図書部	読書習慣の定着	①読書意欲を高める。図書館教育を推進する。	・生徒の提出するリクエストカードの有効利用。 ・読書週間等の企画や図書室だより等での読書推進活動を強化する。	B	①『図書だより』で新刊を紹介し読書への関心を高めている。図書委員からの、お薦めの本を紹介し、図書ブログに掲載した。 ②『高校生のための百冊』の本から抜粋して、190冊の本を購入した。また、リクエストされた本を、196冊(高校161・中学35)購入した。	
		②蔵書の充実を図る。	・情報センターとしての機能充実を図る。 ・受験直前の生徒に対して自学自習の場所を提供する。	B	③前項目で紹介したように、生徒たちの興味のある本を中心に購入し、図書館利用を促進した。 ④本年度も、大学受験をサポートする為、国公立・難関私大・九州私立大の赤本を購入した。	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
教務部	学力向上への意欲を育てる	①学校行事が行われる中、授業時数の確保を図る。	・各行事に向けた特別時間割を作成し、自習の減少を図る。	A	今年度も学校行事が中止および縮小される状況となった。その都度、時間割を編成して対応した。また、分散登校実施にあたっても教科のバランスを考慮して授業時数の確保を図った。	
	分かる授業への取組	②生徒の学習意欲を喚起するよう、一層の授業改善と評価の充実を図る。	・授業の内容を精査し、生徒が興味を持つ題材を選択する。 ・考査と授業が連動していることを生徒に理解させ、日々の授業への取り組み方の向上を図る。 ・教科主任会などを実施し、学力向上に向けた取り組みを共有する。	B	全教室にICT環境が整い、徐々にICTを活用した授業が展開されるようになった。今後は、ICT機器を「何のために」「どのように」使うかに重点を置き、全教科で「主体的に学ぶ」姿勢を育む授業展開を目指したい。今年度は8回のICT職員研修を計画。各教科においてもICT活用推進委員会を中心に教科会で有効な活用方法を検討し、ICT教育の推進を図った。生徒からは、これまでよりもわかりやすいとの声が上がる中、教科間、クラス間での差が生じない取り組みが今後の課題となる。生徒への授業アンケートの実施も検討したい。	
	基礎学力の定着	③基礎基本の着実な定着を図ると共に、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成する。	・3年間を見通した授業計画を立てて、授業内容の精査を行う。 ・細かい小テストを反復することで基礎基本の定着を図る。	B	AI型学習ドリル「すらら」を導入することで、高校入学時からの復習を行うことができた。「すらら」の特徴の一つでもある各種検定対策を通して、基礎学力の定着を図り、各種検定試験への合格に結びつけた。	
	教務規定の周知徹底	④教務関係書類等を見直し、効率的な事務処理を推進する。	・諸処理が正確、迅速、適切となる工夫・改善を図る。 ・教務規定を含めた実務の手引の編纂により、全職員に周知・徹底を図る。	B	現在、教務規定を学校経営案に掲載して全職員への周知を図っているが、実務の手引きの編纂まではいたらなかった。令和4年度中の完成を目指したい。各種書類の統一化、ペーパーレス化について今後も検討を進めたい。	
各部及び理科	多様なニーズを持つ一人一人の生徒に応じた進路指導の推進	多様化する生徒個々の進路目標への対応を推進する。	・進路情報の的確な提供と進路意識の高揚・啓発を図る。 ・進路講演会や出前授業を実施する。 ・進路担当者や担任との個人面談強化を図る。 ・外部教育力の活用（職員研修）を図る。 ・オープンキャンパス等への積極的参加を奨励する。	B	課外授業実施コースにおいて、高校3年生に対する夕課外を希望制とし、高校1、2年生に対しても講座を選択できる放課後講座を開講するなど、主体的に学ぶ姿勢を重視し、クラスに縛られることなく、一人一人のニーズに応じた課外授業を展開した。また、高校3年生の公務員希望者に対する課外授業も開設し、公務員合格者の増加につながった。生徒の進路意識を高めたい。また、担任がゆとりをもって面談を実施できる時間の確保を検討したい。	
	進路希望実現に向けた啓発活動、指導の体制の確立	進路希望実現のための学力充実を図る。	・生徒全員が毎日行動の記録をとり、週明けに提出し、担任からのチェックを受ける。 ・教務部と協力し、朝の時間を活用して、基礎学力テストを計画的に実施する。 ・成績検討会を行うことで、情報の共有化を図る。	B	各学年の成績検討会を定期的実施し、情報の共有化を図った。今後は、実施形態の改善を進め、より効率的な取り組みにしたい。生徒の進路希望が多様化し、とすれば、各コースの特性が薄れて行く傾向にある。コースの特性に応じた進路指導のビジョンをより明確にし、特に1年生の時点で、生徒・保護者に対して、3年後を見据えた情報伝達に力を注ぎたい。	
	進路実現に繋がるキャリア教育の実践	職場体験の機会を設けるなど、職業観の育成を図る。社会保障制度への理解を深める。	・職場見学会やインターンシップを実施する。 ・職業講話（年金、マナー入門講座等）の活用。 ・LHRの効果的活用。総合的な探究の時間との連携強化を図る。 ・教科活動を通して職業観の育成に努める。	A	地道なキャリア教育の指導・実践が、本人の希望に添った職業選択に繋がった。今年度も就職内定率は100%を達成し、進路保障の責任を果たした。コロナ禍により、企業見学会等を実施することが出来なかったが、オンライン環境を利用して、企業による生徒への面談を実施できた。キャリア教育に関しては、就職希望者だけでなく、進学を希望する生徒諸君にも、社会との接点をどのように持つのか、考えさせる機会を増やしていきたい。	
広報部	本校教育活動の素晴らしさの正確な情報の発信	①入試情報や学校行事の情報より早く、確かな情報の発信	・学校案内は、本校の良い所を正確に伝える。 ・ポスターは伝達事項を分かり易く明確に表現する。 ・文徳点描を毎月発行する。	A	学校案内は、分かり易く編集できた。コロナ禍で行事が減った分、文徳点描の記事に先生方へのインタビューを取り上げ、おおむね好評であった。受験生に対しては動画コンテンツを大幅に増加して、本校の魅力を伝えることに努めた。	
		②ホームページ等による情報発信。オープンキャンパスに替わる学校見学会の開催。	・ホームページにより教育活動の速やかな情報発信を継続的に行う。 ・学校見学会を通じて、学校の魅力を体感してもらう。	A	「文徳ing」をほぼ毎日更新し、速やかな情報提供ができた。コロナ禍にあり、新規の動画配信を頻繁に行い、例年以上の視聴数を得た。昨年に続き学校見学ツアーでは、昨年より100名以上多い982名の生徒と保護者の参加を得、個々に対応した丁寧な説明が実施できた。要望が多かったため、来年度は学校見学ツアーのインターネット申し込みを計画している。	
		③各種説明会を充実させ、理解を深めてもらえる工夫をする。	・各説明会の担当者と意見交換を行い、本校の実情に合わせた説明を行う。	A	学校説明会で使用するプレゼンテーション用のパワーポイントを広報部で作成し、説明内容の均一化を図った。リモート説明会の増加に伴い、学校名の入ったデジタルのZOOM用背景を作成したが、配信場所の確保に苦労したため、広報室のWi-Fi環境の充実が必要だと感じた。	
事務部	教育環境の整備	①新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策および自然災害時における対応。	・感染防止対策のために必要な消耗品や備品を準備し感染防止を図る。また、自然災害時の緊急的な対応に備える。	A	・感染症防止対策として、不織布マスクやアルコール消毒液等を購入。各教室入口には、消毒液スタンドを設置し生徒への手指消毒を促すことができた。また、豪雨等により災害が発生した場合に必要な発電機やLED照明等を整備した。	
		②ICT教育を展開するため、施設設備の環境の整備を図る。	・生徒一人一台端末を実現し、深い学びにつながるICTを用いた授業を展開できる環境を整える。	A	・4月中に全生徒に端末を配布し、教室や特別教室にICT機器を導入した。夏休み期間中には整備を完了し、環境整備等を推進した。1.2号館トイレの洋式便器への改修工事を完了した。また、校舎内の全てのトイレに温水洗浄便座を導入した。	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	カウンセリング部	・学校生活に充実感を覚える健全な人間関係を構築させるための、生徒へのアプローチ		・教育相談では、面談を通して生徒へ適切な助言等を行う。生徒・保護者・担任の三者面談も同時に実施。必要に応じて、生徒指導部などの関係部と連携し問題の解決にあたる。 ・アンケート調査結果を分析し早期の問題発見に努める。職員研修を実施する。	B	・健康観察簿などから、担任を中心に悩みを抱える生徒の早期発見を図った。家庭訪問や保護者を交えた相談を実施し、問題解決に努めた。また、個々の生徒の状況を見極め、スクールソーシャルワーカー（SSW）やカウンセラー（SC）との連携を図り、個別に柔軟な対応をした。その結果、登校できるようになった生徒もいた。 ・「心のアンケート」調査結果を分析することで、問題の早期発見につながった。職員間で共通認識を持ち、個人で対応するのではなく、学年集団・関係職員というチームで対応するように努めた。今年度は職員研修の実施ができなかった。
			「不登校生徒」への対応	・保健部と連携し、毎日出席状況を確認。欠席の続く生徒は、概要と要因等を探り、担任と連携を密にする。担任は、家庭訪問を行い、生徒の状況把握、保護者の思いを受け止める。さらに、専門家（SC・SSW）等の助言を得ながら、支援の方法などの充実を図る。 ・教室に入室できない生徒については、カウンセリング室・保健室・図書室などを使用。	B	・保健部の出席状況観察カードで、生徒の出欠・健康状態を確認した。課題をかかえた生徒の早期発見に努めた。特に配慮の必要な生徒については、担任より報告を受け、保健部と連携して、カウンセリング委員会を開き対策に努めた。委員会で専門的な支援方法について検討し、SSWやSCに依頼して相談を重ねることで、状況が改善した生徒もいた。また今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、生徒の健康状態には、より以上に注意した。毎日の体温調査はもとより、コロナ禍での心の健康状態の把握に学校全体で取り組んだ。このことは不登校の初期段階の発見に繋がった。保健室やカウンセリング室を利用することで、登校できるようになった生徒もいた。
		個々の事例に応じた十分な調査の実施。関係部及び委員会などで検討会の実施。学年・担任・家庭との連携。	「いじめ」への対応	「こころのアンケート」などの諸調査で「いじめ」の早期発見に努め、重大化する前に対処する。「いじめ」が確認できた場合は、「学校いじめ対策委員会」で対応を協議。学年・生徒指導部・保健部と連携して対応。	B	・担任を中心に、クラスの状況・生徒の状況把握（特にいじめ）に努めた。また、アンケートの調査結果などから「いじめ」の早期発見に努めた。被害を受けている生徒の救済を第一に、何らかの影響を与えている生徒へのフォローにも努めた。SNSを使った事案については、状況把握が困難である点が大きな問題である。新型コロナウイルス感染拡大のため実施できなかった「スマホケータイ安全教室」を次年度は生徒指導部と連携して実施したい。
			「発達障害等を有する生徒」への対応	・定期的に保健部よりパンフレットを発行し意識を高めた。 ・発達障害等を有する生徒への専門的支援「TEACCHプログラム」の概要を担当へ提供。	B	・カウンセリング委員会で専門的な支援方法について検討した。個別の学習プログラムを作成し、「できること」から始め、そこから「できること」を広げてゆく取り組みを行った。支援が必要な生徒への合理的配慮を検討し、関係職員の共通理解を促した。様々な研修などを通じて、個別の支援方法を組立ることが求められる。
		事例検討会の実施	①カウンセリング委員	カウンセリング委員会を実施し、関係職員とSSW・SC・児童相談所・病院関係者などの外部専門機関との連携を図り、問題解決に努める。	B	・カウンセリング委員会において学校・家庭・外部関係者が連携を図ることで、進路保障に繋がった生徒もいた。今後も外部の専門的機関との連携を高めていき、課題解決に努める。新型コロナウイルス感染症拡大という状況もあり、定期的に委員会を実施できなかった。
			②ケース会議	外部専門機関・保護者の同席の下、支援を必要とする生徒について具体的な支援目標（支援方針）と役割分担を行い、ケースに応じた対応計画を立てる。	B	・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関係職員・外部関係者・保護者が一同に会するケース会議は実施できなかった。関係職員で対応内容を検討し、必要に応じて、個別に対応した。
	理工科	工業教育を通して地域社会に貢献できる人材を育成する。	①専門教科で学んだ知識・技能を活かしてモノづくりや資格取得に対する意欲を高めると共に進路実現を保障する。	・実習や各授業において分かりやすい授業を行い、生徒の学習への興味・関心を高める。 ・学年また専攻毎に資格取得に取り組むことで達成感を体得させ、更に上級資格への意欲を高める。 ・国家資格取得については放課後などの時間を有効に活用し合格率を上げる。 ・県下の中学生を対象に「モノづくり教室」を実施する。	A	昨年について、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、各種資格取得対策を行った。主な資格取得状況は国家資格取得で電気工事士2種(14名/23名中)、同1種(2名/3名中)。合格率は全国平均を上回っている。各種検定試験で計算技術検定1級17名、情報技術検定1級6名、リスニング検定1級9名。ジュニアマイスターゴールド5名(うち特別表彰1名)、同シルバー2名であった。 県下の中学生を対象とした「モノづくり教室」はコロナ禍で今年度も実施できなかったが、少人数グループによる「学校見学会ツアー」で多くの中学生に、モノづくりの魅力を伝えることができた。
			②卒業後の進路選択と自らの人生設計に必要な力を育成するための「キャリア教育」「職業教育」を推進する。	・学年ごとに進路別ガイダンスを実施し、一人一人の人生設計の一助とする。 ・企業講話などを実施し、職業観を育成する。 ・2年次にインターンシップを実施、職場体験させることで生徒の職業観を高める。	A	進学においては、特別進学コースが国公立大学2名、高専編入7名。専門コースは崇城大学に28名。その内、特待生制度（シイク50）に2名が合格した。また、その他私立大学に10名合格。就職においては、学校紹介就職希望者の内定率100%を達成した。公務員においては国家Ⅲ種、熊本県職員、熊本市職員など14名が合格を果たした。インターンシップはコロナの影響で中止。コロナ禍での「職業教育」に工夫が必要である。

4 学校関係者評価

(1) 生徒による評価（アンケートより）

- | | | | |
|------------------------------------|--------|--------|--|
| ① 学校が楽しいですか。 | | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | 肯定的な回答 | ◇90.6% | |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | 否定的な回答 | ◇9.4% | |
| ② スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある。 | | | |
| ・ある・少しある | 肯定的な回答 | ◇76.8% | |
| ・あまりない・ない | 否定的な回答 | ◇23.2% | |
| ③ 授業が分かりますか。 | | | |
| ・分かる・まあまあ分かる、 | 肯定的な回答 | ◇82% | |
| ・あまり分からない・分からない | 否定的な回答 | ◇18% | |

①の「学校が楽しいですか」という質問への回答から、ほとんどの生徒が本校での高校生活を楽しんでいる状況が窺える。コロナ禍にあり、感染拡大防止のため、学校行事についても中止や縮小が続いたこともあり、「あまり楽しくない」の数値9.4%は昨年度より1.9%増加している。その内「楽しくない」と明確に回答した生徒が2.3%おり、この生徒たちについて、その原因を探り、学校生活を有意義なものにすることが課題である。

②の「スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある」という質問に対する否定的な回答は23.2%であった。この回答から、孤立傾向にあつて目標も定まっていな生徒の存在が窺える。自信につながることに挑戦する気持ちを育てる必要がある。

③の「授業が分かりますか」という質問に対する「分かる・まあまあ分かる」は、82%で大半の生徒は授業を理解していると思われる。否定的な回答は18%であった。昨年度の21%より3%減少している。今後はICTを活用したより分かり易い授業への取り組みが求められる。来年度は肯定的な回答の数値を100%に近づけるように努力を継続したい。

(2) 学校関係者評価委員による評価

- ①新型コロナウイルス感染症が依然として猛威を振るっている中、感染拡大防止のため多方面で尽力されていると感じた。
- ②挨拶や礼儀作法など基本的な生活習慣の確立とともに、ルールやマナーの遵守の徹底に重点を置いて指導をして欲しい。
- ③学校新聞「文徳点描」は、生徒の学校生活や保護者の生の声が掲載されており、学校を身近に感じ捉えることができる素晴らしい紙面である。また、コロナ禍にあつて、動画コンテンツの配信は広報の手段の一つとして非常に良い試みだと思う。
- ④頻繁に体育の授業や部活動で使用している第1グラウンドなどの屋外施設の調査と整備を進めてもらいたい。

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

「確かな学力と豊かな人間性を備えた文徳生」を求める生徒像とし、目標を立て教職員が共通認識を図り、生徒指導を行った。コロナ禍にあり、体育大会・修学旅行等の行事は中止を余儀なくされたが、その他の行事は感染防止対策を講じて実施できた。今後も学校行事に工夫を加え企画して行きたい。放課後には自習室を開放しているが、感染拡大防止対策を講じ、数を限定して実施。しかし、利用者は少ない状況であった。部活動では、練習でも時間的・空間的制約を受けながらも、体育部19・文化部4・同好会9それぞれが工夫を凝らしながら活動を継続した。生徒会の委員会活動については、参加人数を限定し感染対策を講じて、定期的に各委員会を実施し、活性化を図った。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

（学習指導）ICT機器のさらなる活用のため、職員研修を実施し、教職員の自己研鑽を促した。対面授業の中で、授業公開WEEKを複数回実施し、教師個々の授業スキルアップを目指した。

（進路指導）コースの特性に応じた進路指導を行った。特に1年生の生徒・保護者に対して、学年保護者会をとおして、3年後を見据えた計画的な取り組みの重要性を伝えることができた。また、課外授業の在り方については、議論を重ね、生徒の主体的に学ぶ姿勢を育むため、放課後の一斉課外を廃止し、選択制の課外講座を導入した。

（広報活動）学校案内にQRコードを付けHPと連動したものに改善した。コロナ禍でのオープンキャンパスをはじめとする広報イベントの工夫と、文徳点描の記事の充実を図った。オープンキャンパスの代わりに、昨年に続き実施した学校見学ツアーでは、昨年より100名以上多い982名の生徒と保護者の参加を得、本校の魅力を伝えることができた。また、各中学校で実施された学校説明会では、プレゼンテーション用のパワーポイント資料を用いて、担当職員による分かり易い説明が実施できた。

(3) 教育環境の整備

感染症防止対策として、各教室入口に、消毒液スタンドを設置し生徒への手指消毒を促すことができた。また、各教室にCO₂センサーを配備し、教室内の換気状況を確認できるようにした。災害発生時に備え、発電機やLED照明等を設置した。全生徒に端末を配布し、教室や特別教室へのICT機器の導入等を推進した。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

新型コロナウイルス感染拡大を受け、今年度も体育大会・修学旅行・強歩会等の行事が実施できなかったが、終業式や始業式、講演会等については、リモートで実施した。また、芸術鑑賞会は二回公演とし、生徒を分散して実施した。部活動では、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、多くの大会が実施され、熊本県高等学校総合体育大会においては相撲部が13年連続で団体戦優勝、女子ソフトボール部も優勝を果たした。体育部19・文化部4・同好会9それぞれが工夫を凝らしながら活動を継続し、生徒自身の充実感につなげることができた。体育部19の内13部活動で女子の入部が可能であり、女子生徒の活躍の場も広がりを見せている。生徒会活動では、委員会活動の活性化に取り組み、定期的な集会をとおして、生徒主体の活動が出来た。

6. 次年度への課題・改善方策

- (1) 入学してから卒業までの3年間を見通した系統的・発展的な生徒指導を今後も継続したい。現代社会において、情報ネットワーク(SNS)・ICT化・整容指導など課題が山積しており、ルール作りが急務である。
- （学習指導）今年度も新型コロナ感染拡大を防止するために分散登校を行ったが、生徒用の端末、教室の大型提示装置の設置が完了し、学習機会の確保に、十分に活用することができた。生徒の顔を常に見て授業ができたわけではなかったため、学習の躓きに敏感になれたかという点では課題が残った。
- (2) （進路指導）各学年の成績検討会を定期的に行うことはできたが、実施形態の改善を進め、より効果的な取り組みにする必要がある。また今年度の入試結果を丁寧に分析し、進路指導体制を強化することで、生徒一人一人の進路実現に繋げたい。
- （広報活動）次年度、オープンキャンパスを実施する場合、新任の先生方や在校生に経験がないために、事前の周知徹底が必要。引き続き見学ツアーを行う場合、参加者が多い7月下旬にスタッフ不足が予想されるので、他の部署の応援をお願いしたい。
- (3) 2号館および3号館の空調設備の更新工事を実施する。
- (4) コロナ禍の中で、どのようにしたら感染対策を徹底しながら行事を実施できるかを、生徒会を中心に、生徒が自ら考え、取り組む機会を本年度以上につけて行きたい。